

## タンザニア

## 企業訪問調査レポート【7】：Kays Logistics ～通関・輸送会社～

## ■ タンザニア連合共和国 — 基礎データ —

- 面積: 94万 7,300平方 キロメートル[日本の約2.5倍] (在日大使館)
- 人口[2013年8月]: 約4,925万3,126人 (世銀)
- 首都: ドドマ[法律上の首都] / 人口208万3,588人 (2012年 国家統計局)  
実質的な首都機能はダルエスサラーム / 人口436万4,541人 (2012年 国家統計局)
- 名目GDP[2013年]: 332億8,500万ドル (2014年10月版 IMF Database)
- 1人当たり名目GDP[2013年]: 719.26ドル (2014年10月版 IMF Database)
- 実質GDP成長率: 7.2\*% (2014年10月版 IMF Database) \*: 暫定値
- 為替レート[中央銀行 2014年11月版]: 1ドル ≒ 1,598.60 タンザニア シリング (2013年 平均値)

出所: JETROホームページ 国・地域別情報(J-FILE)「タンザニア概況(2015年2月更新)」

■ 調査実施 : 2014年 12月

■ 分野 : 通関・輸送会社

■ 特徴 : 従業員全員がタンザニア人のロジスティクス企業。2008年の事業開始以降、その真摯なサポート体制により、ロコミによる新規顧客、リピーターを確実に獲得してきた。その功績により2014年には、英語日刊紙ではタンザニアトップの発行部数を誇る、The Citizenが発表した「タンザニアの中堅企業トップ100」において、3位となった。

## 企業概要

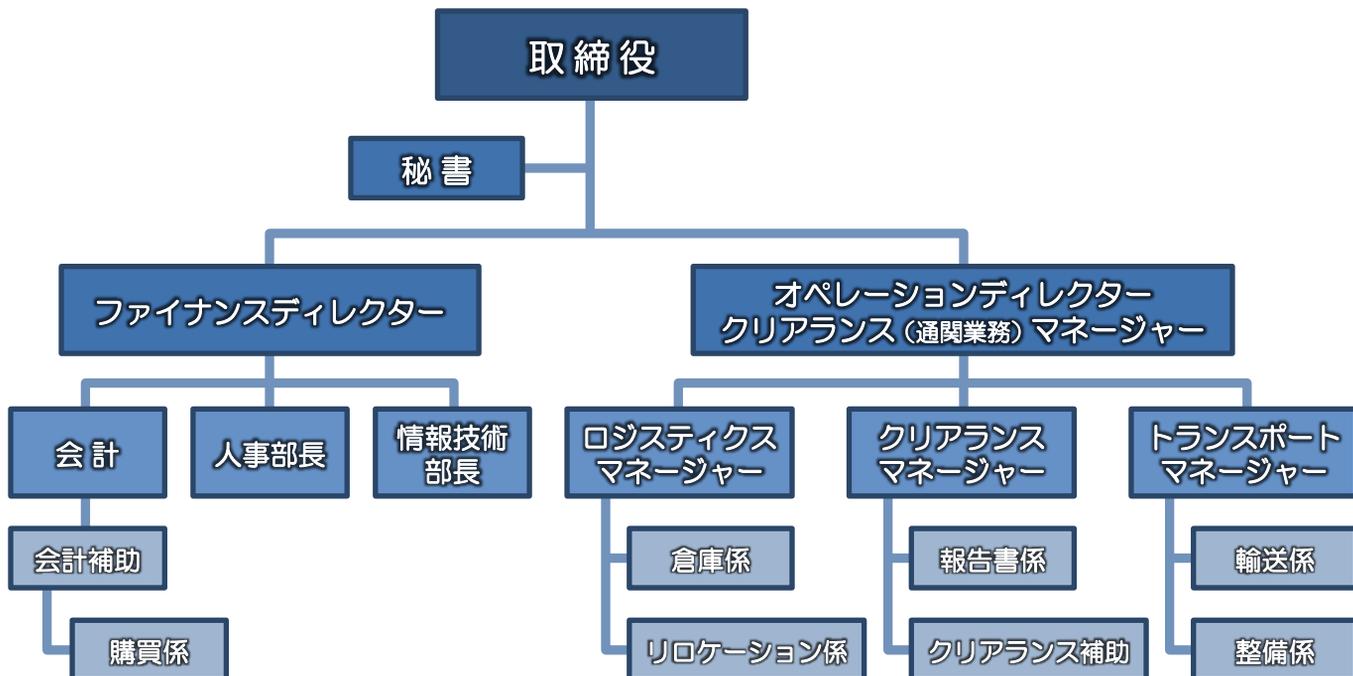
- 社名 : Kays Logistics
- 住所 : P.O.Box13578, Dar es Salaam, Tanzania
- URL : <http://www.kays-logistics.com/>
- 主要拠点 : [本部]ダルエスサラーム  
[支部]ムベヤ、ムワンザ、アルーシヤ、キゴマ
- 設立年 : 2008年
- 従業員数 : 25人
- 社是 : Striving for Excellence(更なる高みへ)



ダルエスサラームのオフィス



組織図

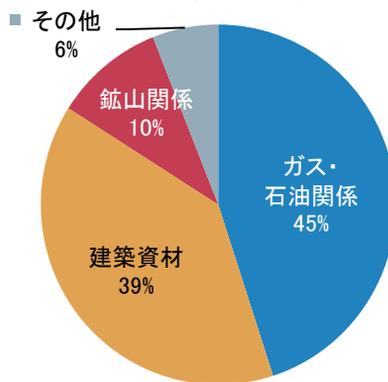


事業の概要

Kays Logisticsは、海外からガス・石油などのエネルギーや建築資材などを輸入し、タンザニア国内で輸送を行うなど輸出入におけるロジスティクス業務を行っている。

- 2014年 事業顧客  
Twiga Cement  
Kilwa Energy Company Limited(現地企業)  
Michel Hurel Transport UK(英国) 等

〔取扱い商品の内訳〕



主な事業

1. 空路、陸路、海路で貨物を運ぶ際に踏む手続きの請負
2. 輸送手段にまつわるアドバイス
3. 荷積み、荷降ろしの請負
4. 貨物の保障
5. 港、空港等の出荷地への移送
6. 通関手続き
7. 貨物にあわせた倉庫のアレンジ
8. 貨物の配送等を行う

これらは一括で依頼することもできれば、一部を依頼することもできる。



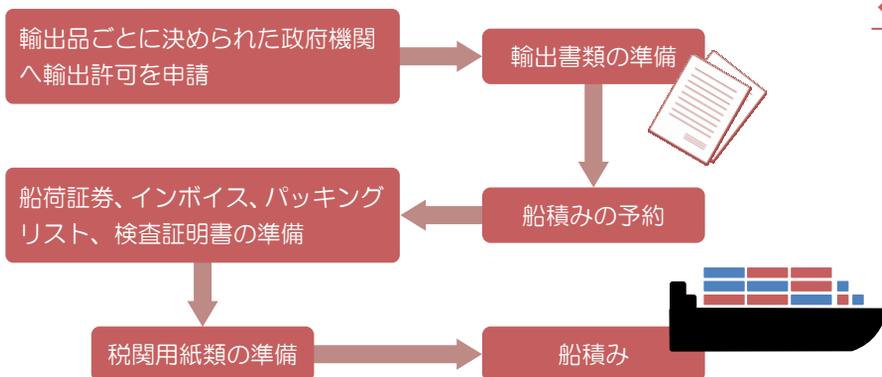
(写真提供: Kays Logistics)

事業内容

■ (1) 輸出入の際の通関業務

タンザニアでは通関業者としてのライセンスをもった会社の従業員に限り港への出入りを許可しており、特にタンザニア国内への輸入の際の通関業者との提携は避けては通れない。Kays Logisticsではライセンスを取得した通関業者として、独自の人脈と経験を活かし、無駄のない、最短期間での通関手続きを行っている。同社が輸出入の際に踏む一般的な手順、必要な書類、税金は以下のとおりとなる。

タンザニアから輸出する場合の手順



輸出の際準備するもの

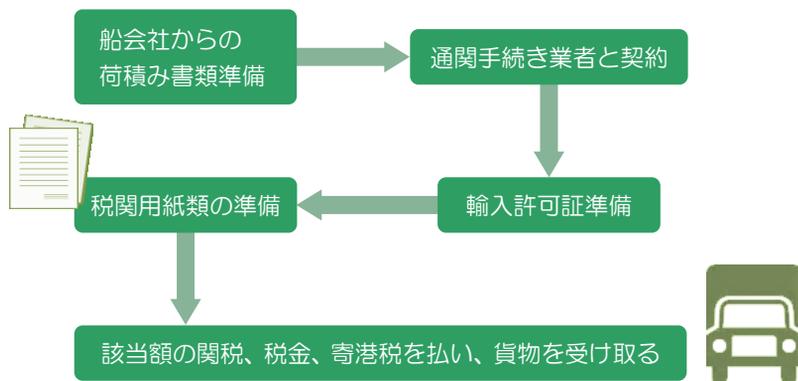
◆は必須 ◇は品目による

- ◆ 輸出許可証
- ◇ 許可証
- ◆ インボイス
- ◆ パッキングリスト
- ◆ 検査証明書
- ◆ 船荷証券

[税金]

- ◆ 輸出税
- ◆ 寄港税

タンザニアへ輸入する場合の手順



輸入の際準備するもの

◆は必須 ◇は品目による

- ◆ 船荷証券
- ◆ インボイス
- ◆ パッキングリスト
- ◆ 検査証明書
- ◇ 許可証

[税金]

- ◆ VAT(18%)
- ◆ 輸入税
- ◆ 寄港税

■ (2) 配送、運搬事業

Kays Logisticsはアルーシャ、ムワンザ等の支店をはじめ、タンザニア全土、隣国にネットワークを持つ。現在5台のトラック(写真)が稼働中。それ以外は外部から調達しているが、銀行からの融資を受け、2015年1月に新たに10台購入予定。以下は、ダルエスサラーム港から各地へ40フィートコンテナを運ぶ想定をした料金表(括弧内はダルエスサラームからの距離)だが、交渉は可能となる。なお20フィートコンテナは荷台への負担があるため、維持管理費用として500ドル上乗せした料金設定としている。

都市名	料金	(ダルエスサラーム港からの) 距離
ムベヤ	1,760ドル	851km
アルーシャ	1,470ドル	647km
ムワンザ	2,820ドル	1,148km

※料金は2014年12月現在。料金には保険は含まれておらず、保険をつける場合はインボイスの3~5%を追加で払う。



(写真提供: Kays Logistics)

事業内容 一つづきー

■ (2) 配送、運搬事業 一つづきー

● 地方からダルエスサラームへの復路

地方からトラックが帰る際に積荷がない場合、トラックは地方の農家の作物をダルエスサラームに運ぶ役割を果たす。これは必ずしもダルエスサラームまでの足があるとは限らない地方農家にとって重要な輸送手段となっている。運ぶ量によって料金は異なるが、通常に比べて非常に安価であることが多い。トラックが各地へ立ち寄るといった情報は、ドライバーからの口コミで各農家へ伝わり、各農家から作物の集荷が行われている。



(写真提供: Kays Logistics)

■ (3) 倉庫事業

これまでは他社の倉庫を紹介する形であったが、2015年から倉庫事業を立ち上げ自社用の倉庫を借り上げた。配送・運搬事業など、既存の事業の受注先である建設業者の資材などを保管することを想定している。200m<sup>2</sup>ほどの倉庫で、1m<sup>2</sup>あたり7ドルでレンタル予定。この料金には保管時の保険も含まれる。

■ (4) 重機、車両のレンタル事業

ロジスティクス事業にあわせ、グレーダー、ブルドーザー、掘削機、クレーンリフトなどの重機やトラック、マイクロバスのレンタル事業も行っている。

■ (5) ビジネスファシリテーション事業

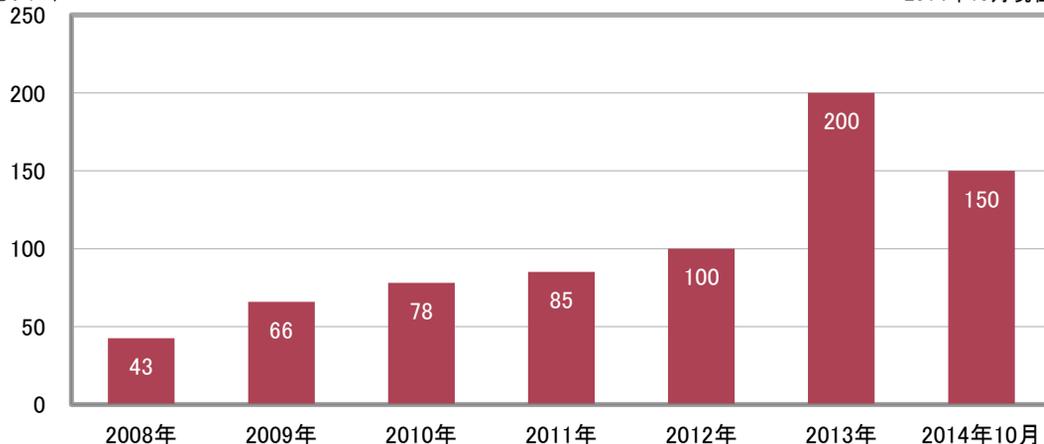
上記の事業以外にも、会社立ち上げの際の手続き代行や、ビザの代行取得、用務管理業務などタンザニアでの輸出入、物流に関係する事業を幅広く取り扱っている。タンザニアでは、政府機関を介す手続きに時間や手間がかかることが多いがKays Logisticsでは、元々政府関係機関で働いていた代表のカクユ氏の経験と人脈を活かし、無駄なくこれらの手続きが行われているとのこと。

売上推移

全事業のうち、配送・運搬事業の売上げが最も大きい。

(万ドル)

2014年10月現在



## ビジネスの概要 ④

### マーケティング手法

顧客との信頼関係を築くことが次の仕事に繋がることを確信した代表のカクユ氏は、顧客とのスムーズなやり取り、またそれぞれの要望にできるだけ答えること、誠心誠意仕事に取り組むことに勤めてきたという。事業が終わり顧客が帰国した際も、直接メールにて事業全体の感想や感謝、また事業の写真を送ることを欠かさない。そうしたアフターフォローマーケティングが吉と出たようで、今年受注した事業の9割はロコミによる新規顧客と、リピーターであった。



リピーターの中国系建設企業



ロコミによって依頼を受けたイギリス企業

### 今後の展望

事業が順調に伸びていることをうけ、2015年には、大規模な設備投資を行う予定。具体的には、トラックを10台、その他に重機も何台か購入する予定だという。これをうけて、今まで外部に頼っていた部分を自社で行うことができるようになるだけでなく、車両や重機の整備不足によるトラブルも防ぐことができるとみている。

### 日本企業（外資系企業）にアピールしたいこと

Kays Logisticsでは「end to end logistics（初めから、終わりまでの総合的なロジスティクス事業）」を社訓としており、総合的かつ、良心的なサービスの提供を目指している。

まだ事業規模としては発展途上であるが、2008年の事業開始以来、顧客と良い関係を築くことを会社全体として意識してきた。その努力が実り、今年、英語日刊紙ではタンザニアトップの発行部数を誇る、The Citizenが発表する、「タンザニアの中堅企業のトップ100」の3位にまで上り詰めた。

日本企業から事業を委託された際には、他の大手にはない、親切かつ丁寧な対応と、自分たちの経験を活かした効率のよいサービス提供を保証すること。



トロフィーを手にする代表のカクユ氏



The Citizen発表「タンザニアの中堅企業のトップ100」の表彰状

(本頁写真・資料提供: Kays Logistics)

代表のカクユ氏は非常に温厚かつ友好的で、それが会社のカラーとしてもにじみ出ているように感じた。カクユ氏はオランダの大学を卒業後、政府関係の役人として働いていたが、起業を決めた。当時の人脈は現在の事業の、特に通関業務に活かされている。

現在はまだ規模も小さいが、2015年には大規模な設備投資が計画されており、今後の成長が期待される。規模が大きくなっても、現在の丁寧なサービスの提供を維持し、これまでの事業で得た経験と教訓を活かしていくことが、今後も重要となるのではないだろうか。



代表のカクユ氏と稼働中の車両

(写真提供: Kays Logistics)



# JETRO

**【免責事項】**本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。JETROでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、JETROおよび執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。